

こくみん共済 coop 慶應義塾大学寄附講座

「公共私による新しい福祉価値の創造－新しい福祉価値をどのように生み出すか－」

第9回 2025年12月11日

## 「公的年金制度における GPIF の役割 ～年金基金は未来社会にどのように貢献するのか～」

年金積立金管理運用独立行政法人 理事長 内田 和人氏

### ■日本の公的年金制度について

GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）理事長の内田です。私は慶應義塾大学の卒業生で、今日皆さんにお話しさせていただくことを大変嬉しく思っております。さて、皆さんは自分が何歳まで生きると考えていますか？実は65歳からの平均余命は男女ともにどんどん長くなっています。そうした中、長きにわたり自分が経済的にどう賄っていくかは大きな課題であり、その中で公的年金が果たす役割は大きくなっています。公的年金には3つの特徴があります。一つは終身支給。もう一つは障がいを負った場合や配偶者を亡くした場合に、障害年金、遺族年金が支給されること。最後は、物価や賃金に応じた年金が支給されるということです。これらの特徴から、公的年金は生涯にわたる「保険」だにご理解いただきたいと思います。

日本の年金制度は、社会・経済制度の変化に合わせて変遷してきました。公的年金制度が創設された当時は、親と同居し自分達で親を養っていく私的扶養が一般的でした。その後、社会全体で高齢者を支える公的年金制度が整備され、私的扶養から社会的扶養へと移り変わっていきます。1985年には高齢社会に備えて公的年金制度の安定と運営基盤の強化を目指した基礎年金が導入され、第3号被保険者制度を創設して女性の年金権を確保します。直近の大きな改正は2004年で、少子高齢化を見据えて年金制度を持続可能なものにするため、保険料の上限を固定、基礎年金の国庫負担を2分の1に引き上げ、給付の水準を物価の水準に合わせて自動調整する仕組みのマクロ経済スライドが導入されました。日本の公的年金制度をもう少し詳しく説明すると、現役世代は、自営業や学生の第1号被保険者、会社員や公務員の第2号被保険者、その配偶者の第3号被保険者に分かれ、第1号被保険者は大体月に17,000円を国民年金の保険料として支払います。第2号被保険者は給与・賞与の18.3%を厚生年金の保険料として労使折半で支払います。高齢世代の年金受給者は、保険料を払った方々は基礎年金を全員受給でき、加えて、会社員、公務員は厚生年金の報酬比例部分を受け取ることができます。保険は3階建になっており、1階部分が国民年金（基礎年金）、2階が厚生年金、3階はiDeCo、確定拠出年金、企業年金などです。日本の公的年金制度は、現役世代が収めた保険料で現在の高齢者（受給者）を支える「賦課方式」が採用されています。年金積立金は、現役世代が収めた年金保険料のうち、年金支払いなどに充てられなかったものを積み立てているお金で、GPIFはこの積立金を国内外の資本市場で運用し、運用収益を拡大することで少子高齢化に伴う将来世代の年金給付を補うことを目標としています。

### ■GPIFについて

1986年に当時の年金福祉事業団が年金資金運用事業を開始します。その後、2006年に年金積立金管理運用独立行政法人が設立され、GPIFの歴史が始まりました。独立行政法人とは国から切り

離して独立した法人が効率的に経営するという意味で、国立大学や国立病院も同じ位置付けとなっています。GPIF は 2015 年に 5 つの投資原則を打ち立てました。①被保険者の利益のための安全・効率的な超長期運用、②国際分散投資、③基本ポートフォリオと政策ベンチマークに基づいた運用、④サステナビリティ投資、⑤スチュワードシップ責任を果たす活動、を投資原則としています。超長期運用について、例えば 2001 年末に国内株式、外国株式、国内債券、外国債券にそれぞれ 100 万円を投資して、それが 2024 年には各 425 万円、839 万円、125 万円、276 万円に推移しています。途中では元本割れもあったのですが、長期に投資しているところのような効果があるのです。国際分散投資について、世界経済は国ごとの成長の過程やリスクがあるのですが、世界中に分散投資をすると結果的に 4～5% のリターンを得ることができるので、非常に重要です。GPIF には運用目標が二つあって、一つは長期の運用目標が名目賃金上昇率+1.9%、もう一つは 5 年毎に立てている中期目標期間で国内外の債券、国内外の株式の 4 資産のベンチマークを加重平均した収益率である複合ベンチマーク収益率を上回ることを目指しています。我々は、ポートフォリオのリバランスを繰り返すことで、目標とするパフォーマンスを確保しています。また、伝統的債券、株式とは違う性質のオルタナティブ資産には債券や株式とは異なるリスクやリターンがあるため、リスクを分散する意味と超過収益確保の観点から、オルタナティブ投資にも力を入れています。

#### ■GPIF のサステナビリティ投資

GPIF が未来の社会にどのように貢献していくのかということ、サステナビリティ投資についてお話をします。まず、GPIF は世界の株式約 5,000 銘柄、債券約 13,000 銘柄に投資をしているユニバーサル・オーナーです。さらに、100 年先の年金制度を視野に入れた超長期投資家です。このような投資家は、世界経済がサステナブルに成長していかないと投資リターンを確実に上げることは出来ず、国民の皆さまに年金の資金を確保することが出来なくなります。ですから GPIF はサステナビリティ投資を非常に重要視しているのです。私たちは 2025 年 3 月に、サステナビリティ投資方針を策定しました。そこでサステナビリティ投資をする上での次の 6 つのイニシアティブを設定しています。①ESG インテグレーション、②エンゲージメント、③ESG 指数投資、ESG アクティブファンド投資、④インパクトを考慮した投資、⑤サステナビリティに関するリスク分析（気候変動等）、⑥関係団体（経団連）等との協働。また、GPIF では主に株式に対して 9 つの ESG 指数を設けて投資をすることで、投資先企業の ESG への取り組みを促しています。そして ESG をさらに細かい項目に分けて考え、重大な ESG 課題について運用会社から情報収集して対外的に公表することでサステナブルな社会を実現したいと考えています。同様に、気候変動についても情報開示をしています。こうした取り組みを推進し、インベストメントチェーン（成長と分配の好循環）を促進していくことで、持続可能な未来社会の実現に貢献するのが私たちの使命です。サステナビリティについては、皆さん自身に関わることであり、皆さんの子ども世代、孫世代にどう貢献していくのかを、ぜひご自身で考えていただきたいと思います。

<文責：こくみん共済 coop >